

日本語教育国際研究大会の試み —名古屋調査から—

山田太郎 (山田大学)・山本山子 (山本大学)

1. 背景と目的

ことばは人と人の中に新しいつながりをつくる。それによって、この世界はより豊かな社会になることができる。そんなことばの教育として日本語教育を考えてみるとどうなるのだろうか。

日本語教育は、外国語、第二言語として日本語を学ぶ人と教える人だけのものではなく、日本の、そして世界中の日本語を使っている人、自分自身は日本語を使わないけれど、日本語を使う人と接している人…、いろいろな人といっしょに、なぜ日本語を。

2. 方法

2.1 対象

開催の背景日本語教育国際研究大会^{注1}は、日本語の教育と研究について、国境、地域を越えた協力と情報交流を推進することを目指して、1998年3月に東京で開催された。

2.2 方法

具体的な手順は以下のようなものである。

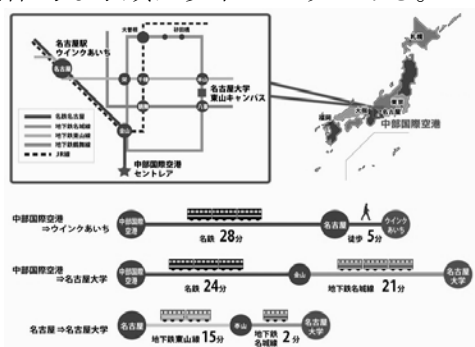


図1 タスク課題の一例

3. 結果

3.1 対象

2011年8月には天津(中国)で開催された。2002年大会(天津)では、五つの国と地域の代表により(GN)結成の覚書が交わされた。ここまでで37行、2012年は日本語教育学会

の創立50周年の節目の年に当たるため、2012年国際研究大会を日本で開催することを2009年開催のGN代表者会議^{注2}において提案し、本大会の開催が決定したので、ここにお知らせすることとなった。

3.2 結果

日本語教育学会が誕生して半世紀。これまで世界中で日本語教育の実践と研究が積み重ねられ、その成果を共有するために日本語教育国際研究大会(ICJLE)が開催されてきた。

表1 事前事後テスト得点の推移

	A	B	C	D
事前	4	5	6	7
事後	4	3	8	8

4. 考察

このような認識をもとに、2012年名古屋大会は日本語教育の意義と役割を広く日本の方々に知っていただく場にもしようと計画している。一人でも多くの方の参加を心からお待ちしている。

5. 今後の課題

どのような価値観を持って社会を作りあげていくのか、それを語り合うにはことばが必要だ。では、そのようなことばを教えたり学んだりするというのはどのような営みなのだろうか。「ことばの教育」に携わる者すべてが立ち戻るべき原点だと考えた。

注1：日本語教育国際研究大会は2012年8月18日から20日にかけて開催される。

注2：口頭発表は19日に行われる。

【参考文献】

山田花子(2003)『日本語の分析』, 研究出版
山本太郎(2000)「日本語の会話」『日本語教育』300号,
pp. 6-20 ここまでで37行